

# 淀姫 通信

よどひめ つうしん

平成 22 年 3 月 30 日  
 皇紀 2670 年  
 (西暦 2010 年)  
 第 4 号  
 発行 淀姫神社社務所  
 〒859-4501  
 長崎県松浦市志佐町浦免  
 632  
 TEL・FAX 0956-72-0653

## 祈年祭(春祭)斎行

恒例の祈年祭(春祭)を三月十三日に執り行いました。当日は米寿・喜寿・金婚の方々のお祝いをし、今後益々のご健康・長寿をお祈りし、賀状を贈呈いたしました。平戸神楽の奉納では「荒潮」「所堅」「折敷」の三番を奉納しました。特に「折敷」は曲芸的な舞で、松浦の方では舞う事が少ないので機会があったら是非一度ご覧下さい。朝まで降っていた雨も上がり、社務所二階での直会も終始和やかな雰囲気でした。豊かな秋の稔りと共に新嘗祭(秋祭)を迎えたいものです。



「折敷」の舞  
 漆塗りの丸盆を両手に  
 持って舞います。  
 (奉仕者：調川町・天満  
 神社 禰宜 中山政彦様)



「所堅」の舞  
 刀を持って舞います。  
 刀の持つ霊力によつて  
 四方をお清めいたします。

## 『玉串』とは？

神社での祭典や地鎮祭などでは、玉串拝礼を行います。玉串は、柳の小枝に紙垂や麻を付けたものです。柳は常磐木といわれ一年中葉が枯れず緑色をしていて豊かな生命力を表します。玉串の意味は、神と人との間に立って、霊威を取り次ぐもの、或いは神意を通じるものだといわれます。玉串を神前に奉って拝礼することで、柳の小枝を通して人々の願いが神様に通じるのです。神話において天照大神が岩戸隠れした際、玉や鏡などを付けた五百津真賢木を布刀玉命が捧げ持った事に由来します。また神霊の依代が玉串の由来であるとも考えられます。語源については諸説あります。平田篤胤らは神話の記述のように玉を付けたから「玉串」だとし、本居宣長は「手向串」の意としています。「たま」は「魂」の意だとする説もあります。

## 玉串拝礼の作法

- ① 玉串は、右手で柳の根元を上から、左手で柳の下の方から支えて受け取り、胸の高さにやや左高になるように持ちます。(神職は、受け取る人が持ちやすいように玉串を渡します。)
- ② 玉串を置く案(台)の前まで進みます。
- ③ 玉串の先を時計回りに約九十度回し、左手を下の方に下げて、両手で根元を持って玉串を立て、願いを込めます。
- ④ 右手で柳の中段を下から支え、玉串をさらに時計の方向に回しながら、根元を神前に向けて、左手を離して右手の下に添えます。
- ⑤ やや進んで、そのまま案(台)の上に置きます。
- ⑥ 二拝二拍手一拝して、四十五度頭を下げる深揖をして自席に戻ります。

